

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	湖北台ケアガーデンワカバ		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖北台ケアガーデンワカバでは、「思いやり・労り」を念頭におき、事業所スローガンとして「支え・愛」⇔支え合い、愛溢れるケアを実現出来るようお客様の生活のサポートをさせていただきます。いつも笑いが絶えない環境づくりが実現出来るよう職員一丸となり日々取り組んでおります。小規模多機能型居宅介護サービスが併設されており、地域の方々も日々通所していただいております。皆様と自由にお話しやお食事等一緒に楽しい時間を共有していただける環境でもございます。お客様が地域の方々とお付き合いができて且つ、これからも楽しく安心して寂しさを感じない生活を送っていただけるホームを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく、開放的な建物の2階にグループホームがある。昼食は、利用者もできる範囲で準備や後片付けに参加しており、職員と一緒に食卓を囲み、会話が弾んでいた。地域との交流が盛んで、ホームは地域の一員として見守りサービスなどの活動に加わっている。今年度から毎月、家族が医師、職員と直接顔を合わせるケアカンファレンスを始めた。家族アンケートの「介護計画をご家族にわかりやすく説明し、一緒に、内容に関する話し合いをしていますか」との問いには有効回答数の全数が「説明を受け一緒に話し合っている」と回答しており、満足度も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え・藍」をモットーにお客様、職員すべての方々が「笑顔」でいれる環境を築きあげるべく、職員一同「思いやり・労り」を念頭にお客様(ご本人・ご家族関係者様各位)すべての方々へ誠意を持ってご対応させていただいております。	理念の実践に当たっては、個別ケアが基本と考えている。表現が困難な人の場合も、できる事やADLを検証して日々の生活に組み入れ、メリハリのある生活を支援したいと職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、行事(ホーム主催、自治会主催)等、地域の方々との「接点」を持っていけるよう「参加したり」「参加させていただいたり」して地域との交流及び繋がりを大切にさせていただいております。	ホームは地域の見守りネットワークに加入し、利用者が見守られると同時に地域を見守る活動をしている。自治会などを通じて盆踊り大会、餅つき大会などに参加したり、介護予防教室に場所を提供したり、お祭りにも多くの人が訪れる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、市内及び地域の高齢者問題、認知症独居者の対応について等高齢者なんでも相談室様、自治会長様及び防犯対策での子供110番拠点などを行いながらPTAの方々とも情報共有させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員様のご意見、ご要望且つ、ご助言を頂戴して改善出来る事を率先して実行していくよう努めております。特に自治会様と連携しての行事、イベントの積極的な参加、災害対策の連携などの強化を含めて地域に根差して安心して利用できるホームにしていけるよう只今実行中でございます。	運営推進会議は併設する小規模多機能事業所と合同で、隔月で開催している。自治会長、地域包括支援センター、ボランティア、行政、近隣住民などの参加を得ているが、家族の参加は少ない。	日頃から家族の協力はあがるが、運営推進会議への参加が少ない状況である。家族が参加しやすくなるような工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課様・高齢者なんでも相談室様(地域包括支援センター)・介護相談員様等のご指導をいただき管理者のみならずケアマネージャー・現場リーダー・現場職員も連携を図り、情報共有させていただいております。	市町村との関係は良好で、日頃から連携して情報共有をしている。介護予防教室への会場提供や市の見守りネットワークへの参加など、ホームとしてもできることを協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間帯の玄関施錠はしていません。夜間に関してはセキュリティの観点から施錠しております。身体拘束に関しては施錠であったり行動を制限してしまう行為であることを現場ケアを通じて職員に理解を促すとともにスタッフミーティング等での周知を促しております。	拘束に当たる事例を具体的にあげてミーティング等で注意し合っている。言葉遣いには拘束にあたるかどうかの判断が難しい面もあり、この点は気を付けて確かめ合うことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴介助等にて身体の外傷確認や心身状態の観察を強化して、個別の状況把握に努め日々注意を払っております。身体拘束同様にスタッフミーティング等でも確認及び虐待防止への理解を職員全体で共有していくよう進めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等、現行は利用する対象者がグループホームではいらいらないが、小規模多機能を併設しており小規模多機能サービスで利用する対象者がいらいするためなんでも相談室の職員様を通じ職員共々進め方等学習させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様と契約書及び重要事項説明書を読み合わせた上で、再度詳細をご説明させていただきご理解をいただいております。尚、ご契約後も疑問点等生じた場合には、再度ご説明させていただきご納得していただくようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアカンファレンスなどでご家族様、介護者様にも参加いただき、ご意見・ご要望を頂戴しております。そのご意見をスタッフミーティング等で職員全体で共有して出来る限り実行していけるよう努めております。	家族来訪時に意見、要望を聞くよう努めるとともに、事業所側からも外出レクリエーションへの協力依頼など相談を投げかけて、コミュニケーションをとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を開催しております。そこで意見・提案等職員で話し合い議論しております。事業所内では決定できない案件については本部会議にて稟議をかけて検討していただいております。	管理者は職員会議の他、日常的に職員の声を聞くように努めている。物品購入、イベント計画、食事計画に関する職員の意見は本部に稟議をあげ、アドバイスや支援を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の変動はございますが、基本的に柔軟に業務が行えるよう担当制にせず、出来る限り全員がオールマイティーに業務が行えるようにしている事と、小規模多機能型サービスと併設しているので配置的には出来る限りグループ分けをして配置し、働きやすい環境を心掛けております。尚、職員個々の力量・希望等を考慮して配置しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量、考え方を把握出来るよう管理者のみならず現場リーダーを配置して現場職員が悩みや相談且つ、スキルアップしやすいようにして管理者及び現場リーダーも個々の力量等をより把握できるよう情報共有するよう努めております。尚、現場職員にはモチベーションを高めていけるよう居室担当制にして使命感等養ってもらえるようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内事業所分科会に参加して他事業所との情報交換等させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のご要望のみならず、職員からもご提案させていただき、多少なりともご安心していただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の状況も踏まえ、それと同時にご家族様のご状況及びご提案もさせていただき、必要なサービスをご提案させていただくよう努めております。安心して多種多様なご相談もいただける関係の構築の実現を目指し且つ、密に連絡のやり取りを行い迅速にご対応できるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント時にご本人様、ご家族様のご意向を把握させていただき、ご意向を出来る限り尊重していけるようケアマネージャー・現場リーダーを中心に職員全体で話し合い、その時に必要だと考えられるサービスを検討してご提案させていただき実行しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・食事の準備や後片付け等を一緒に行い、生活協同者であるのだと思っただけよう職員全体で日々努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日会、行事等のみならず、定期的通院等でも事前にお知らせ等連絡をして、ご本人様との関わりを増やしていきたいと努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様のお知り合いがご面会に来られた際、ホーム内で気軽にお話しが出来るよう職員全体で意識して雰囲気をつくれるよう心掛けております。	知人の訪問もあり、家族の了解を得てから面会の支援を行う事もある。墓参り、正月の一時帰宅などは出来る限り、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は1Fフロアにて小規模多機能サービスの皆様も含めて一緒に過ごしていただいたり、朝・夕の食事は必ずご入居者様同士で召し上がっていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後についてもご家族様、ご本人様には不定期ではございますが煩わしくない程度にお電話等させていただきご相談やご支援が必要でないかを確認するよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向を出来る限り尊重させていただいております。(帰宅願望、趣味、趣向等)但し、ホームでもご対応しきれない事が発生した際にはご家族様のサポートをお願いしながら出来る限りご本人様のお気持ちを尊重するよう努めております。	業務日報や連絡ノートには、利用者の意向を詳細に書くように努めている。利用者を経合的に見つめ、徘徊する利用者には、複数の職員が気を配りながら、利用者の意思を尊重した無理強いしない支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時により多くの情報を収集出来るように努めております。また、ご家族様にもサービス提供時に疑問点等が発生した場合には、その都度お聞きするようしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「気付き」を大切に記録に残し、お一人、お一人のご様子や変化を把握出来るよう日々観察していくようしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー⇄居室担当者が月1回各々でモニタリングを行い、そのモニタリングシートをもとにケアカンファレンス(毎月10日~20日)を行いケアプランの進捗及び見直しを検討していくようしております。検討内容に準じてサービス提供していくよう努めております。	具体的な介護計画を策定するため、臨機応変な対応に努めている。必要に応じ、その都度家族に連絡し、意向を聞き取っている。医師の助言から1年に1回、医師と家族、施設の三者で話し合いを持つことを今年度から始めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(カードックス記録票)には、日々のご様子等毎日記録に残しております。特記事項などは「GHノート」に記録して情報共有を徹底してより良い支援が提供できるよう介護計画にも反映するようしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のみならず、ご家族様も含めてのニーズの変化に対応するべく「出来ること・出来ないこと」をより明確に職員全体が認識し、誠意を持ちお客様にご対応させていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催行事に参加させていただいたりしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に関わる重要な情報を把握し、今年の4月～主治医・管理者・ケアマネジャー・ご家族様とでケアカンファレンスを開催して「顔の見える関係の構築」を主旨に行っており、ご家族様に安心感を持っていただくようにしております。	在宅診療医、訪問看護、訪問歯科医と連携し、定期的な受診を支援している。精神科、眼科などに関しては、家族と職員のどちらかで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師様が来所した際、ご入居者様の健康状態を説明していただいております。また、電話連絡を頻繁に行い、相談及びご指示を仰いで対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院先のソーシャルワーカー様と情報交換を行い、ご家族様からのご要望・ご意向を反映して対応しております。ご入院先に現場職員も面会させていただき、可能な限りご入院先の看護師様に情報をいただくようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時、ご本人様・ご家族様のご意向をお伺いして、そのご意向を出来る限り尊重した終末期を迎えられるように、主治医様・訪問看護師様・職員と連携して意思統一を図り且つ、情報共有も行き対応していくよう努めております。	契約時に「重度化した場合の指針について」を用い家族の意向を確認している。ホームは、経口摂取が難しくなった時点で、医師と家族間で何度でも話し合いができる場作りに努めており、家族等の意向に沿った終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現行、全職員が応急手当等の訓練を定期的に行われていないのが現状でございます。改善すべき事項だと認識しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練等消防署に依頼し訓練しております。自治会の避難訓練にも職員、ご入居者様も参加して意識を高めていくよう努めております。	25年度1回目の避難訓練を実施した。初期の誘導場所について、消防署の指導を貰い、非常用階段の適合性についても市に確認している。自治会の防災訓練に施設全体で参加し、緊急連絡網の見直しを行なっている。	地域性に即した具体的なマニュアル作りを行ない、定期的な訓練を実施していくことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉づかいについては、注意を払うよう意識して対応しております。声のトーン・思いやりのある穏やかな言葉掛けなどを意識してご入居者様が不快感を感じないように努めております。	利用者の誇りを損ねない言葉遣いに特に注意している。新任職員には、利用者の表情や状況に応じた対応ができるように研修を実施している。職員の対応に問題があれば、リーダーを介して注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様と職員との間でどんな事でもお話し出来る関係づくりを大切に、思いや希望をきちんとお聴きするように努めております。お聴きしたお話しを参考にして、より良い援助に活かしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の「出来ること」を居室担当者を中心に職員全体で抽出して、個々の役割として行っていただくようにしております。その役割を中心に毎日、昼間帯での余暇時間をどのように過ごしたいのかを確認しながら皆様の過ごし方を決定していくよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣など個々の好みに合わせてコーディネートさせていただいております。ヘアカットに関してもご意向に合わせて、訪問理美容や、中にはご家族様が馴染みの理美容店にお連れしていただいたりして支援させております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が付き添って一緒に行うようにして支援させていただいております。	昼食は、準備から後片付けまで、利用者ができる範囲で参加している。職員も一緒にテーブルを囲み、会話が弾んで楽しそうな時間を過ごしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量はその都度チェックを行い、一日のトータル摂取量を把握して、多い・少ないを判断して申し送り等にて職員間で情報共有して注意を払っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には必ず口腔ケア体操を行い、食後は必ず口腔ケアをしております。介助が必要な方は職員が行い、義歯の方についてはお預かりして消毒・洗浄等させていただいております。尚、訪問歯科診療の先生様にもご指導いただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、声掛け、WC誘導させていただいております。	排泄パターンを把握し、利用者のサインも確認しながらトイレ誘導している。自立の利用者も含め日中は、ほぼ全員がトイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事においては食物繊維の多く含まれた食品及び乳製品等取り入れるようにして工夫しております。また、体操等運動を頻繁に取り入れ予防していくよう努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日は計画しているが、体調不良もしくは、外出してしまう場合などが発生してしまった際、出来る限り曜日を変更して入浴していただいております。午前・午後とも入浴出来るよう支援しております。	午前10時から午後3時まで入浴ができる体制を取っている。入浴予定日の変更は臨機応変に対応し、個々が週2~3回入浴できるように支援している。個別に対応していることで職員と利用者が話をする良い機会になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠が生じた場合には、お茶や温かい飲み物(ココアやホットミルク等)をお出し、お話を聴くなどして安心してベッドに横になっていただけるよう環境づくりを行い、対応させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時及び服薬時に誤薬・落薬が発生しないようWチェック(封を開ける際の時と開けてお渡しする際)及びお渡ししてきちんと服用したか否かまで確認するよう周知徹底しております。症状の変化に対応するべく、必ず木陸に残して変化が生じている場合には主治医様・訪問看護師様に報告して指示を仰ぐようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々に合わせた行事や催しを計画し、出来る限り外出の機会を増やして気分転換等していただくようにしております。ご入居者様のご要望に添った行事、催しの計画立案して実行しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望・ご要望に合わせて散歩・買物・通院などに出掛けております。自治会様の盆踊り大会や餅つき大会・避難訓練などにも積極的に参加させていただいております。	食材の買い物希望する利用者を手を上げてもらい、週3回地域のスーパーに出かけている。職員が利用者に声かけし、気軽に近隣を散歩する姿が見受けられた。結婚式などへの出席も家族に対応してもらい、今まで通りの外出ができる様に支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい込んで忘れてしまったりするご入居者様が多いため、ホームの金庫にてお預かりさせていただいております。また、外出時には、職員管理のもと、ご本人様にお渡ししてご対応させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じてお電話できるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時に制作した作品をホーム玄関等に展示したり飾ったりしております。照明も暖かい色合いの照明を選んで穏やかな雰囲気づくりを演出しております。特に「香り・臭い」を意識してホーム内(特に玄関・WC)にて不快感を感じさせないよう細心の注意を払っております。	建物の2階にあるホームは、リモコンで調整が利く天窓が設置され、採光も良く、明るい環境である。壁の飾り付けも、自宅にいるような雰囲気を作るよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F・2Fフロア共に食堂・和室など自由にご利用していただけるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の慣れ親しんだ愛用品などを継続して使用していただき、安心して過ごしていただける居室環境にしていけるよう配慮しております。	居室は、各々が愛用の品や家具を持ち込み個性的に設えられている。各居室とも個性があり、利用者の入居前の生活が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が洗濯物を干したり、畳んだりすることが安全に出来る環境を整えるようにしております。また、残存機能を活かし入浴など出来るよう浴室も整備しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所